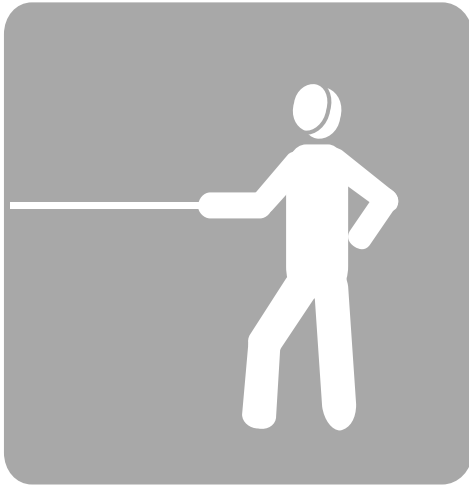


色紙を使用

Epee (エペ)



[剣の重さ 770 g以下]
[剣の全長 110 cm以下]
[ガードから剣先まで 90 cm以下]
[ガードの直径 13.5 cm以下]

剣先には750 gの強さのバネが入っていて、これ以上の力で突くとランプが点灯します。ラピエールという決闘用剣の流れを受け継ぎ、昔ながらの三角形の剣身を持った、風格のある形をしています。

全身が有効面

17世紀中頃、剣先で相手を突くだけの「エペ」という剣（術）が生まれました。それ以前は「ラピエール」という、「切って」も「突いて」もよい剣が使用されていました。エペの出現以来、急速に普及し、ラピエールにとって代わる剣術となりました。

エペは、正式の決闘武器として行なわれたものが競技化したもので、全身（頭から爪先）どこを突いても有効となり、色ランプがつき、突いた選手に得点が入ります。しかし、電気審判器の中に1/25秒のタイム差がセットされていて、このタイム差以内で両選手が「同時突き（Coup Double:クードゥーブル）」をすると両方の色ランプが点灯し、両選手に1ポイントずつ得点が与えられます。

全身が有効面で、また1/25秒差以内の素早い突きが要求されるため、試合運びの中に両選手の張り詰めた気迫が感じられるところがみどころといえるでしょう。

西洋の決闘では、自分の名誉を守るために行うので、相手に血を流させたら終わりです。その時、自分も血を流したら相打ちになるので、エペには相打ちの判定があるのです。